

令和三年中 神田消防署 主な出来事



写真：令和元年 文化財防火デー消防演習

火災・救急の状況（神田消防署：速報値）

災害区分等		令和3	令和2	前年比	
火災	件数	合計	27	28	-1
	【件】	建物火災	18	19	-1
		車両火災	3	—	+3
		その他火災	6	9	-3
	焼損床面積【㎡】	5	—	+5	
死者【人】	0	—	0		
負傷者【人】	0	2	-2		
救急	出場件数【件】	5,263	5,111	+152	
	救護人員【人】	4,493	4,377	+116	

「救急」は神田救急隊と三崎町救急隊の合計（管外への出場を含む）

3月 神田消防少年団 総務大臣賞受賞



神田消防少年団が昭和53(1978)年の発足以来、長きに渡り、青少年の健全育成と将来の防災リーダーの育成に貢献してきたことが高く評価され、総務大臣賞を受賞しました。

今年も、新型コロナ禍で活動が制限されるなか、数少ない活動を工夫し、子供たちが防火・防災に関わる知識・技術を楽しみながら習得しました。

4月 国内初 トイレカー運用開始



災害現場における長時間活動や、現場で活躍する女性隊員の増加を踏まえ、災害活動の後方支援体制を強化するためトイレ機能に特化した車両（消防機関としては国内初）が神田消防署に配置されました。本年7月に発生した熱海市土砂災害(死者・行方不明者30名)にも緊急消防援助隊として現地に派遣しました。

5月 医療従事者として救急隊員 ワクチン優先接種



神田医師会の協力を得て、消防署を接種会場とし、医療従事者の位置付けて、救急隊員がいち早く2回の新型コロナウイルスワクチン接種を行い、救急活動において新型コロナウイルス感染症に対峙しました。

7～9月 東京2020大会 消防特別警戒完遂



消防署と消防団が連携し、東京2020大会期間中、会場に警戒員及び救急隊を配置するなど消防特別警戒を実施しました。

神田署は、柔道・重量挙げ・トライアスロン・マラソンスイミング・パラマラソンの会場警戒を担当しましたが、けが人の救護のほかは大きな災害なく完遂しました。

8月～9月

新型コロナ第5波 非常用救急隊編成



酷暑、また東京2020大会警戒の最中、新型コロナ感染第5波が猛威を振るい、医療提供体制がひっ迫するなか、救急活動においても、感染症患者（疑い含む）の収容先が決まらず長時間となる活動が頻発し、救急需要が一時増大したことから非常用救急隊を編成し対応しました。

8月

火災による死者ゼロ4000日達成



神田消防署管内においては、平成22年8月の火災以来、火災による死者が発生しておらず、本年8月12日に「火災による死者ゼロ4000日」を達成しました（現在も更新中）。

神田消防団や管内の町会、自治会、事業所など、地域一体となった長年に渡る継続的な防火防災への取り組みの成果の現れです。

10月

3.11以来 東京で震度5強



10月7日22時41分、千葉県北西部を震源とし、東京地方に最大震度5強の地震が発生しました。当庁管下全域に非常配備態勢を発令し、全消防職員・消防団員に参集命令を発しました。神田消防署では、エレベーター内閉じ込めの救助活動に部隊を運用したほか災害の通報はなく、管内に人的被害は発生しませんでした。

11月・12月～

立入検査を強力に推進！



11月に外神田地区を重点とした繁華街の店舗に対する一斉立入検査（平成13年の歌舞伎町ビル火災を教訓に）を実施しました。さらに12月17日に大阪市北区で発生したビル火災（死者25名）を受けて、管内の300を超える同種建物に対する緊急の立入検査を実施しました（令和4年1月末日完了予定）。

令和3年中

2車両を新車に更新

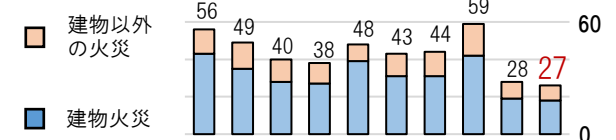


令和3年中に、神田1小隊（3月運用開始：ポンプ車）、神田指揮隊（5月運用開始：ワンボックス型）を新車両に更新しました。装備する情報通信機器や消防活動器具なども更新し、複雑多様化する災害への対応力の充実、強化を図りました。

令和3年中

火災件数過去最少を更新

過去10年の件数等	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	合計
火災件数計(件)	56	49	40	38	48	43	44	59	28	27	432
建物火災(件)	43	35	28	27	39	31	31	42	19	18	313
建物以外(件)	13	14	12	11	9	12	13	17	9	9	119
焼損床面積(m ²)	68	424	46	75	89	425	36	60	0	5	1228
死者(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
傷者(人)	12	6	0	9	13	5	2	14	2	0	63



神田消防署管内、令和3年中の火災は、合計で27件となり、過去最少であった令和2年中（28件）を下回りました。

新型コロナ禍で外出自粛（テレワーク等）が続くなか、事務所からの出火が減少するなど、令和2年以降、火災件数は大きく減少しています。